

我孫子市手賀沼沿い農地活用計画

資料編

平成25年3月

我孫子市

目次

1. 農地及び農業経営の調査・分析.....	1
(1) 統計調査.....	1
(2) 農家ヒアリング調査結果.....	4
(3) 農家アンケート調査結果.....	17
(4) 市民アンケート調査結果.....	24
2. 地域資源調査結果.....	30
3. 「先進事例」の調査.....	32
4. 各地区の排水施設の現況調査.....	37
(1) 根戸新田地区.....	37
(2) 高野山新田・我孫子新田.....	38
(3) 岡発戸新田.....	39

(注) 集計は、数値は原則として小数点第1位を、構成比は小数点第2位を四捨五入してある。したがって、数値、構成比の合計があわない場合がある。

1. 農地及び農業経営の調査・分析

(1) 統計調査

1) 土地利用

① 地目別土地利用状況

我孫子市内の農地は、水田を中心に約3割を占めています(図表1)。

経営耕地面積915haのうち、水田が耕地面積の77.4%(709ha)、畑が21.6%(198ha)を占めています(図表2)。

図表1 地目別土地利用面積

平成23年 (2011年)	面積(ha)	田	畑	宅地	湖沼	山林	原野	雑種地	その他	合計
		構成比(%)	21.8%	9.0%	25.9%	0.4%	4.0%	0.1%	16.3%	22.5%

出典:「我孫子市の統計」(我孫子市)

図表2 種類別経営耕地面積

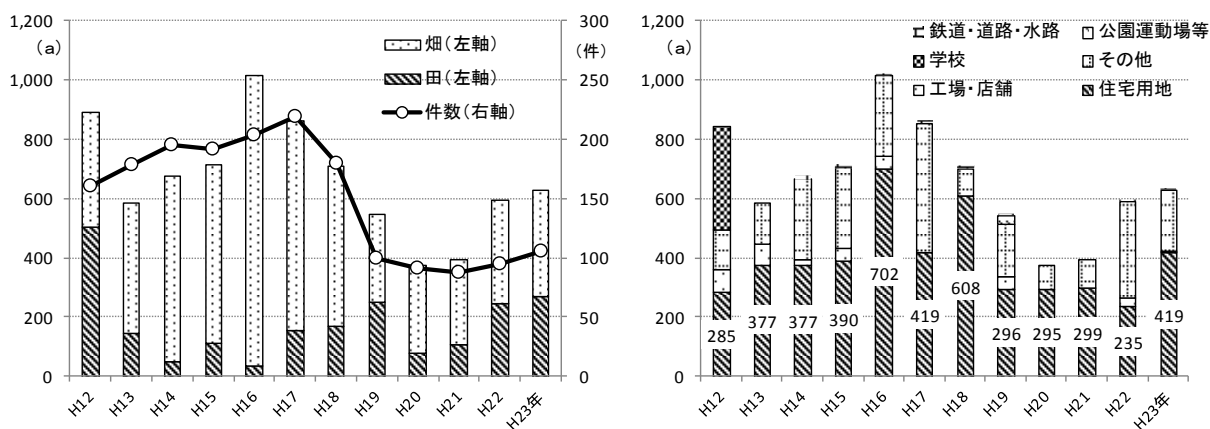
	経営耕地面積(単位:a)				構成比		
	総面積	田	畑	果樹地	田	畑	果樹地
千葉県	9,032,075	5,959,695	2,738,879	333,501	66.0%	30.3%	3.7%
我孫子市	91,509	70,868	19,807	834	77.4%	21.6%	0.9%

出典:2010年「世界農林業センサス」、平成22年2月1日現在

② 農地転用

平成19年以降で見ると、年間で約100件、400~600a程度の田畑が農地以外の用途に転用されており、その多くは住宅用地となっています。

図表3 農地転用状況



出典:「我孫子市の統計」(我孫子市)

2) 農業の状況

生産者の高齢化や担い手不足などに伴い、販売農家数は急速に減少しており、平成2年の953戸から平成22年時点では550戸にまで減少しています（図表4）。

農業従事者の高齢化も進み、平均年齢で65.3歳と千葉県平均を上回る水準となっており、60歳以上で全体の7割以上を占めています（図表5）。

農業従事者の高齢化、新たな担い手の減少などにより、耕作放棄地も増加しています（図表6）。

図表4 農家数と農業従業者数の推移

区分		単位	平成2年	平成22年	平成2年比 (H2=100)	
販売農家数	農家総数(販売農家)	戸	953	550	57.7	
	専業	戸	141	105	74.5	
	兼業	戸	812	445	54.8	
	兼業が主	戸	214	110	51.4	
	兼業が主	戸	598	335	56.0	
農業従事者		計	人	2,441	1,591	65.2

出典:2010年「世界農林業センサス」、平成22年2月1日現在

図表5 年齢別農業就業人口(自営農業に主として従事した世帯員数)

(農業就業人口)

	男女計		年齢階層別								平均年齢 (歳)
	男性	女性	15~29歳	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上		
千葉県	93,901	46,869	47,032	2,893	3,845	6,389	14,632	24,810	28,831	12,501	64.8
我孫子市	879	392	487	18	34	57	149	245	265	111	65.3

単位:人

(構成比)

	男女計		年齢階層別構成比							
	男性	女性	15~29歳	30~39	40~49	50~59	60~69	70~79	80歳以上	
千葉県	100.0%	49.9%	50.1%	3.1%	4.1%	6.8%	15.6%	26.4%	30.7%	13.3%
我孫子市	100.0%	44.6%	55.4%	2.0%	3.9%	6.5%	17.0%	27.9%	30.1%	12.6%

出典:2010年「世界農林業センサス」、平成22年2月1日現在

図表6 耕作放棄地面積

	計 (ha)	販売農家 (ha)	自給的農家 (ha)	土地持ち 非農家 (ha)	耕作放棄 面積比率 (注)
千葉県計	17,963	5,963	3,232	8,769	16.6%
我孫子市	67	29	7	31	6.8%

出典:2010年「世界農林業センサス」、平成22年2月1日現在

(注)耕作放棄地面積÷(経営耕地面積+耕作放棄地面積)×100

3) 農業生産

農業産出額は、28 億円であり、そのうち約 63%にあたる 17 億円を「野菜」が占めています（図表 7）。

我孫子市の農業は、低地部の水稲作が中心であることから、「農家 1 戸あたりの農業生産額」が低く、「年間販売額 1,000 万円以上の農家率」、「農家 1 戸当たり生産農業所得」、「耕地 10a 当たり生産農業所得」といった所得関連指標も低くなっており、農業経営は非常に厳しい状況にあります（図表 8）。

図表 7 農業産出額

		主 な 農 業 産 出 額								畜 産
		総 額	耕 種							
			耕種計	うち 米	うち 雑穀・豆类	うち いも類	うち 野 菜	うち 果 実	うち 花 き	
千葉県	(億円)	4,014	3,009	706	67	217	1,570	167	207	1,003
我孫子市	(1,000万円)	282	280	98	0	3	172	5	2	3

出典：関東農政局千葉農政事務所「平成18年千葉県生産農業所得統計」

図表 8 主要農業構造指標

指 標	千葉県	我孫子市	松戸市	野田市	柏市	流山市	鎌ヶ谷市	6市 平均	我孫子市 偏差値
耕地率	25.0%	29.8%	12.7%	26.1%	22.8%	16.7%	21.9%	21.7%	63.1
水田率	58.3%	73.6%	8.6%	51.3%	47.3%	32.8%	0.0%	35.6%	63.7
耕作放棄地率	16.6%	6.8%	11.3%	22.8%	13.7%	18.9%	10.6%	14.0%	87.7
農家率	2.9%	1.2%	0.4%	3.6%	1.0%	1.1%	1.0%	1.4%	48.4
販売農家率	73.9%	83.7%	77.0%	57.2%	66.9%	52.5%	82.5%	70.0%	60.4
専業農家率	19.1%	16.0%	30.2%	14.1%	20.4%	14.9%	40.5%	22.7%	43.7
農業後継者のいる農家率(販売農家)	40.5%	44.0%	49.6%	35.9%	41.5%	38.0%	44.6%	42.3%	53.5
経営耕地面積3.0ha以上の農家率	8.2%	8.2%	0.9%	3.2%	6.1%	1.1%	1.5%	3.5%	65.6
年間販売金額1000万円以上の農家率	7.4%	2.3%	8.4%	4.4%	6.4%	1.4%	12.8%	6.0%	41.3
一戸あたり耕地面積(a)	175	195	92	129	156	83	114	128	65.9
農家1戸当たり農業産出額(千円)	5,445	4,292	6,679	4,022	5,696	3,909	9,457	5,676	43.6
農家1戸当たり生産農業所得(千円)	1,766	1,480	2,836	1,529	2,122	1,566	3,833	2,228	42.1
耕地10a当たり生産農業所得(千円)	110	87	324	125	152	204	356	208	39.0

出典：千葉県農林水産部農林水産政策課「千葉県農林水産業の動向(平成24年度版)」等から作成

(2) 農家ヒアリング調査結果

[1] 調査の目的

本調査は、手賀沼沿い農地活用計画の基礎資料として活用するため、根戸新田地区、高野山新田・我孫子新田地区、岡発戸新田地区の農用地区域内の地権者の意向を把握することを目的とする。

[2] 調査の方法と回収結果

- ・調査対象：当該3地区の地権者に対するヒアリング調査
- ・調査時期：平成24年8月1日（水）～9月30日（日）
- ・有効回答：85人

回答者の地区別の分布は下記の通り。

(単位:戸)

地区	回答数	構成比
根戸新田	29	34.1%
高野山新田 我孫子新田	31	36.5%
岡発戸新田	25	29.4%
合計	85	100.0%

① 農業への取り組み状況

農業への取り組み状況をみると、販売農家が過半数を占め、自給的農家も含めると農家は3分の2、その他が3分の1。自給的農家は根戸新田に多い。

農業の状況

(単位:戸)

	回答数	構成比	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
1.販売農家	44	51.8%	10	18	16
2.自給的農家	12	14.1%	10	2	0
3.土地持ち非農家	27	31.8%	8	11	8
4.無回答	2	2.4%	1	0	1
合計	85	100.0%	29	31	25

② 世帯の状況

世帯の人員構成をみると、3人が一番多いが、5人以上の多人数の世帯も3分の1以上みられる。

世帯の人員数

世帯員数	回答数	構成比	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
1. 1人	3	3.7%	2	1	0
2. 2人	9	11.0%	2	5	2
3. 3人	18	22.0%	6	7	5
4. 4人	14	17.1%	4	6	4
5. 5人	12	14.6%	4	5	3
6. 6人	10	12.2%	4	1	5
7. 7人	8	9.8%	2	3	3
8. 無回答	8	9.8%	3	3	2
合計	82	100.0%	27	31	24

回答数に法人(3社)を含まない。

農業従事者は110人。世帯人数では2人が多く、性別では男性が若干多い。年齢別では高齢者(65歳以上)が生産年齢人口(15歳~64歳)若干多い。

農業従事者。世帯別人数、男女別、年齢別

		回答数	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
農業従事者数(合計)		110	35	43	32
世帯人数	1. 1人	13	6	1	6
	2. 2人	20	5	12	3
	3. 3人	15	5	6	4
	4. 4人	3	1	0	2
性別	1. 男	60	17	23	20
	2. 女	49	17	20	12
年齢	1. 生産年齢	51	12	22	17
	2. 高齢者	57	22	21	14

③ 後継者の状況

後継者があるという世帯は3分の1弱であるが、より詳しく確認すると、確信を持って農業を継続するといえる状況ではない世帯が多い。

後継者

		回答数	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
後継者の有無	1. あり	25	12	6	7
	2. なし	27	5	13	9
	3. 無回答・不明	27	10	10	7
	合計	79	27	29	23
後継者の人数		25	12	6	7
後継者の年齢	1. 生産年齢	25	12	6	7
	2. 高齢者	0	0	0	0

④ 農業収入の状況

専業と兼業が半々であるが、専業は高齢者で他の仕事にはつけないケースが多い。世帯主が働き盛りの場合は、兼業のケースが多い。

農業収入だけで生活ができる世帯はごく僅かで、大部分の世帯はできないとしており、何らかの農業以外の収入を得ているケースが多い。

農業収入

		回答数	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
専業・兼業	1. 専業	21	8	2	11
	2. 兼業	25	1	17	7
	3. 無回答・不明	12	3	7	2
	合計	58	12	26	20
農業収入で生活ができるか	1. 生活できる	9	1	2	6
	2. 生活できない	56	21	24	11
	合計	65	22	26	17
その他の収入はあるか	1. ある	61	21	26	14
	2. ない	7	1	1	5
	合計	68	22	27	19

⑤ 農地の状況(現在)

当該地区の対象地域の面積の合計は、40.4haで、うち販売農家が73.3%、自給的農家が12.8%所有し、全体の86.1%を農家が所有している。3地区別にみると、根戸新田が14.8haで一番広く、岡発戸新田が13.7ha、高野山新田・我孫子新田が11.9haとなっている。販売農家の所有では、岡発戸新田、高野山新田・我孫子新田、根戸新田の順となっている。自給的農家は根戸新田地区に多い。

農地の状況 (単位:㎡)

	合計	構成比	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
1.販売農家	295,884	73.3%	82,746	97,338	115,800
2.自給的農家	52,081	12.8%	43,829	5,187	3,065
3.土地持ち非農家	49,639	12.2%	17,306	16,142	16,191
4.無回答	6,738	1.7%	4,175	332	2,231
合計	404,341	100.0%	148,056	118,999	137,286

農地の利用状況をみると、水田が23.8haで全体の58.8%、畑が6.8haで全体の16.8%となっている。田も畑も全体の約10%を貸出している。市民農園・観光農園、水生植物園、景観作物など農舞台の取り組みで4.5ha活用されている。耕作放棄地は2.1haで、全体の5.3%となっている。

農地の利用状況 (単位:㎡)

	全体			自分で耕作		貸与・生産委託		
	筆数	面積	構成比	面積	構成比	面積	構成比	
全 体	田(水稲)	315	237,645	58.8%	214,301	65.8%	23,344	29.6%
	畑(露地・施設栽培)	161	67,838	16.8%	61,667	18.9%	6,171	7.8%
	市民農園・観光農園	45	34,698	8.6%	0	0.0%	34,698	44.0%
	水生植物園	14	6,407	1.6%	0	0.0%	6,407	8.1%
	景観作物	6	4,330	1.1%	0	0.0%	4,330	5.5%
	耕作放棄地	23	21,267	5.3%	21,267	6.5%	0	0.0%
	その他	73	25,418	6.3%	21,506	6.6%	3,912	5.0%
	無回答	16	6,738	1.7%	6,738	2.1%	0	0.0%
	合計	653	404,341	100.0%	325,479	100.0%	78,861	100.0%

⑥ 農地の状況（5年後）

5年後の農業経営では、この地区の主力の田も畑も現状維持とするものが多いものの、その他では拡大より縮小の方が多くなっている。

これを農地の面積で見ると、田を所有している農家では、「拡大したい」という農家が持っている面積より「縮小したい・やめたい」とする農家が持っている面積が2倍となっており、貸付や売却を想定しても、すべてをマッチングさせることは難しい。畑も同様に3倍となっている。農家の声を聞くと、「この地区は基盤整備が行われていないため、販売目的で農業を行うことはきわめて困難である」としており、規模を拡大したい農家でも、自分の農地から地続きのところなら「借りたい・買いたい」あるいは「基盤整備のもっと整った市内の他地区で確保したい」という意見が聞かれている。

5年後の農業経営・農地（農家）

		回答数	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
田 (水稲)	1. 拡大	5	0	4	1
	2. 現状維持	37	9	16	12
	3. 縮小	8	2	3	3
畑 (露地栽培)	1. 拡大	2	2	0	0
	2. 現状維持	30	13	12	5
	3. 縮小	5	4	0	1
畑 (施設栽培)	1. 拡大	1	1	0	0
	2. 現状維持	8	2	4	2
	3. 縮小	2	1	0	1
果樹	1. 拡大	1	1	0	0
	2. 現状維持	0	0	0	0
	3. 縮小	0	0	0	0
その他 (市民農園)	1. 拡大	2	0	1	1
	2. 現状維持	3	1	2	0
	3. 縮小	1	0	1	0
その他 (景観作物)	1. 拡大	1	0	1	0
	2. 現状維持	3	2	1	0
	3. 縮小	0	0	0	0
その他 (遊休農地)	1. 拡大	0	0	0	0
	2. 現状維持	1	0	1	0
	3. 縮小	0	0	0	0
その他	1. 拡大	0	0	0	0
	2. 現状維持	1	0	0	1
	3. 縮小	0	0	0	0
全体として	1. 拡大	1	0	1	0
	2. 現状維持	0	0	0	0
	3. 縮小	1	0	0	1

5年後の農地(面積)

(単位:㎡)

		全体		自分で耕作			貸与・ 生産委託
		筆数	面積	拡大	現状維持	縮小・やめる	
全体	田(水稻)	315	237,645	20,445	146,473	47,383	23,344
	畑(露地・施設栽培)	161	67,838	5,034	42,119	14,514	6,171
	市民農園・観光農園	45	34,698	0	0	0	34,698
	水生植物園	14	6,407	0	0	0	6,407
	景観作物	6	4,330	0	0	0	4,330
	耕作放棄地	23	21,267	0	21,267	0	0
	その他	72	25,418	0	21,506	0	3,912
	無回答	16	6,738	0	6,738	0	0
	合計	653	404,341	25,479	238,103	61,897	78,861
根戸新田	田(水稻)	63	41,920		24,749	14,364	2,807
	畑(露地・施設栽培)	125	55,405	5,034	35,419	11,247	3,705
	市民農園・観光農園	21	19,451				19,451
	水生植物園		0				
	景観作物	3	3,789				3,789
	耕作放棄地	19	17,256		17,256		
	その他	21	6,059		5,079		980
	無回答	13	4,175		4,175		
	合計	265	148,055	5,034	86,678	25,611	30,732
高野山新田・我孫子新田	田(水稻)	123	77,225	12,004	49,900	12,075	3,246
	畑(露地・施設栽培)	14	2,946		1,818		1,128
	市民農園・観光農園	24	15,247				15,247
	水生植物園	14	6,407				6,407
	景観作物	3	541				541
	耕作放棄地	2	1,090		1,090		
	その他	36	15,212		12,873		2,339
	無回答	2	332		332		
	合計	218	118,999	12,004	66,013	12,075	28,908
岡発戸新田	田(水稻)	129	118,500	8,441	71,824	20,944	17,291
	畑(露地・施設栽培)	22	9,488		4,883	3,267	1,338
	市民農園・観光農園						
	水生植物園						
	景観作物						
	耕作放棄地	2	2,921		2,921		
	その他	16	4,147		3,554		593
	無回答	1	2,231		2,231		
	合計	170	137,287	8,441	85,413	24,211	19,222

⑦ 農地の状況(10年後)

10年後の農業経営も5年後と同様の傾向であるが、「現状維持」が減少し、「縮小」するものが多くなっている。これは、後継者不足により、自分の代は営農を続けるが、自分ができなくなったら「縮小」する・やめる農家が多いためとみられる。

この傾向は、農地面積の動向にも現れており、「縮小」する・やめる農家が持っている農地は約10haまで拡大しており、どのように活用していくかが大きな課題となってくる。

10年後の農業経営・農地(農家)

		回答数	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
田 (水稲)	1. 拡大	5	0	4	1
	2. 現状維持	32	8	13	11
	3. 縮小	11	3	5	3
畑 (露地 栽培)	1. 拡大	0	0	0	0
	2. 現状維持	29	13	11	5
	3. 縮小	8	5	2	1
畑 (施設 栽培)	1. 拡大	2	0	0	2
	2. 現状維持	7	1	4	2
	3. 縮小	3	2	0	1
果樹	1. 拡大	0	0	0	0
	2. 現状維持	0	0	0	0
	3. 縮小	0	0	0	0
その他 (市民農 園)	1. 拡大	2	0	1	1
	2. 現状維持	3	1	2	0
	3. 縮小	1	0	1	0
その他 (景観作 物)	1. 拡大	1	0	1	0
	2. 現状維持	3	2	1	0
	3. 縮小	0	0	0	0
その他 (遊休農 地)	1. 拡大	0	0	0	0
	2. 現状維持	1	0	1	0
	3. 縮小	0	0	0	0
その他	1. 拡大	0	0	0	0
	2. 現状維持	1	0	0	1
	3. 縮小	0	0	0	0
全体とし て	1. 拡大	1	0	1	0
	2. 現状維持	0	0	0	0
	3. 縮小	1	0	0	1

10年後の農地(面積)

(単位:m²)

		全体		自分で耕作			貸与・ 生産委託
		筆数	面積	拡大	現状維持	縮小・やめる	
全 体	田(水稲)	315	237,645	20,445	124,320	69,536	23,344
	畑(露地・施設栽培)	161	67,838	4,073	31,701	25,894	6,171
	市民農園・観光農園	45	34,698	0	0	0	34,698
	水生植物園	14	6,407	0	0	0	6,407
	景観作物	6	4,330	0	0	0	4,330
	耕作放棄地	23	21,267	0	21,267	0	0
	その他	73	25,418	0	21,506	0	3,912
	無回答	16	6,738	0	6,738	0	0
	合計	653	404,341	24,518	205,532	95,429	78,861
根 戸 新 田	田(水稲)	63	41,920		17,717	21,396	2,807
	畑(露地・施設栽培)	125	55,405	4,073	25,415	22,212	3,705
	市民農園・観光農園	21	19,451				19,451
	水生植物園		0				
	景観作物	3	3,789				3,789
	耕作放棄地	19	17,256		17,256		
	その他	21	6,059		5,079		980
	無回答	13	4,175		4,175		
	合計	265	148,055	4,073	69,642	43,608	30,732
高 野 山 新 田 ・ 我 孫 子 新 田	田(水稲)	123	77,225	12,004	34,779	27,196	3,246
	畑(露地・施設栽培)	14	2,946		1,403	415	1,128
	市民農園・観光農園	24	15,247				15,247
	水生植物園	14	6,407				6,407
	景観作物	3	541				541
	耕作放棄地	2	1,090		1,090		
	その他	36	15,212		12,873		2,339
	無回答	2	332		332		
	合計	218	119,000	12,004	50,477	27,611	28,908
岡 発 戸 新 田	田(水稲)	129	118,500	8,441	71,824	20,944	17,291
	畑(露地・施設栽培)	22	9,488		4,883	3,267	1,338
	市民農園・観光農園						
	水生植物園						
	景観作物						
	耕作放棄地	2	2,921		2,921		
	その他	16	4,147		3,554		593
	無回答	1	2,231		2,231		
	合計	170	137,287	8,441	88,333	24,211	19,222

⑧ 基盤整備について

多少の自己負担があってもどのような基盤整備を行いたいか聞いたところ、希望が多いのは、排水路整備で、他の項目より圧倒的に多い。地区別では、ほとんどが根戸新田地区になっている。ただし、排水については、すべての地区で困っているとの声があり、地域共通の課題である。他には、排水対策の一環としての客土、農道整備、暗渠整備などが次いでいる。

基盤整備について

(単位:筆数)

		回答数	行う	多少行う	現状維持
全 体	用水施設整備	634	12	13	609
	排水路整備	634	67	53	514
	ほ場整備(区画整理)	634	16	28	590
	客土	634	16	45	573
	農道整備	634	14	35	585
	暗渠整備	634	5	35	594
根 戸 新 田	用水施設整備	252	12	2	238
	排水路整備	252	67	24	161
	ほ場整備(区画整理)	252	12	0	240
	客土	252	8	41	203
	農道整備	252	14	25	213
	暗渠整備	252	1	7	244
高 野 山 新 田 ・ 我 孫 子 新 田	用水施設整備	215	0	0	215
	排水路整備	215	0	0	215
	ほ場整備(区画整理)	215	4	0	211
	客土	215	8	3	204
	農道整備	215	0	0	215
	暗渠整備	215	4	3	208
岡 発 戸 新 田	用水施設整備	167	0	11	156
	排水路整備	167	0	28	139
	ほ場整備(区画整理)	167	0	28	139
	客土	167	0	0	167
	農道整備	167	0	10	157
	暗渠整備	167	0	25	142

⑨ 共同での取り組みについて

現状を見るとすべての農家が単独で営農しており、今後をみても単独営農が圧倒的に多い。共同の取り組みも考えないわけではないが、核になる若手がないこと、自身に後継者がいないことなどから難しいという意見が多い。

共同での取り組み

		回答数	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
現状	1. 単独	47	16	17	14
	2. 集落営農	0	0	0	0
	3. 生産法人化	0	0	0	0
	4. 民間法人	0	0	0	0
	5. その他	0	0	0	0
今後	1. 単独	38	12	14	12
	2. 集落営農	3	1	2	0
	3. 生産法人化	4	3	0	1
	4. 民間法人	0	0	0	0
	5. その他	0	0	0	0

⑩ 環境保全型農業について

一部にちばエコやレンゲ米などの環境保全型農業に取り組む農家もみられるが、大部分は慣行栽培となっている。

新たに取り組みたくても、今の体制では手間がかかるので、支援を受けなくてはできないという意見が多い。

環境保全型農業

		回答数	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
現状	1. 慣行栽培	36	14	14	8
	2. ちばエコ	4	0	2	2
	3. エコファーマー	1	0	1	0
	4. 有機JAS	0	0	0	0
	5. 特別栽培	1	0	1	0
	6. その他	1	0	1	0
今後	1. 慣行栽培	31	12	14	5
	2. ちばエコ	5	1	2	2
	3. エコファーマー	2	1	1	0
	4. 有機JAS	1	1	0	0
	5. 特別栽培	2	1	1	0
	6. その他	1	0	1	0

⑪ 手賀沼農舞台の取り組みについて

手賀沼農舞台の取り組みとしては、根戸新田では体験農園が3件、景観作物栽培が2件、観光農園、不耕起栽培が各1件である。

高野山新田では、営農水田の保全18件、市民農園7件、農村景観の保全6件、水生植物園(水辺を活かした公共緑地の整備)3件である。

手賀沼農舞台の取り組み

		回答数	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
根戸 新田	1. 果樹栽培エリア	0	0	0	0
	2. 観光農園エリア	1	1	0	0
	3. 不耕起栽培エリア	1	1	0	0
	4. 体験農園エリア	3	3	0	0
	5. 栽培契約エリア	0	0	0	0
	6. 付加価値米栽培エリア	0	0	0	0
	7. 景観作物栽培エリア	2	2	0	0
	8. 自家消費野菜栽培エリア	0	0	0	0
	9. 拠点施設エリア	0	0	0	0
高野山 新田	1. 営農水田の保全	18	0	18	0
	2. 農村景観の保全	6	0	6	0
	3. 市民と農家の交流拠点の形成	0	0	0	0
	4. 市民農園としての農地の活用	7	0	7	0
	5. 農業体験への水田の活用	0	0	0	0
	6. 斜面林、湿地、水田の一体的保全	0	0	0	0
	7. 水辺を活かした公共緑地の整備	3	0	3	0
	8. 水辺の環境整備とネットワークの形成	0	0	0	0

⑫ 市民とのかかわりについて

市民とのかかわりが一番多いのは、直売所で 17 件、次いで、環境保全型農業が 10 件、市民農園・体験農園 9 件、食農教育・環境教育 8 件と続いている。

現在の市民とのかかわり

区分	合計	構成比	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
1.直売所等への出荷を通じた農産物の提供	17	65.4%	0	7	10
2.有機・減農薬など環境に配慮した農畜産物の生産と販売	10	38.5%	6	3	1
3.農作業技術を身に付けた方の雇用(パート含め)	2	7.7%	1	1	0
4.援農ボランティアなど農業理解者との連携	4	15.4%	1	1	2
5.農地などを保全する活動での市民との協働	1	3.8%	1	0	0
6.市民農園・体験農園の提供や栽培技術等の指導	9	34.6%	4	5	0
6-2.もぎとり体験ができる観光農園の開設	0	0.0%	0	0	0
7.農家レストランなどを開設し、地元の食材を活かした食事を提供	0	0.0%	0	0	0
8.子どもに対する食農教育・環境教育へのかかわり	8	30.8%	3	3	2
9.農業体験や収穫祭等のイベントをととした市民との交流	4	15.4%	1	2	1
10.景観作物の栽培などにより良好な空間・景観の提供	7	26.9%	4	3	0
11.特産品やお土産の開発と提供	1	3.8%	1	0	0
12.農畜産物や食・農業体験などに関する農家ならではの情報発信	2	7.7%	1	1	0
13.その他	0	0.0%	0	0	0
14.特になし	2	7.7%	0	2	0
合 計	67	100.0%	23	28	16

今後については、現在と同様、一番多いのは、直売所で15件、次いで、環境保全型農業が12件、市民農園・体験農園11件、景観作物10件、食農教育・環境教育8件と続いている。

現在に比べて増えているものに、景観作物7件→10件、環境保全型農業が10件→12件、市民農園・体験農園9件→11件などがある。

今後の市民とのかかわり

区分	合計	構成比	根戸新田	高野山新田 我孫子新田	岡発戸新田
1.直売所等への出荷を通じた農産物の提供	15	57.7%	1	7	7
2.有機・減農薬など環境に配慮した農畜産物の生産と販売	12	46.2%	7	4	1
3.農作業技術を身に付けた方の雇用(パート含め)	5	19.2%	2	2	1
4.援農ボランティアなど農業理解者との連携	5	19.2%	1	2	2
5.農地などを保全する活動での市民との協働	2	7.7%	1	1	0
6.市民農園・体験農園の提供や栽培技術等の指導	11	42.3%	4	7	0
6-2.もぎとり体験ができる観光農園の開設	2	7.7%	1	0	1
7.農家レストランなどを開設し、地元の食材を活かした食事を提供	3	11.5%	2	0	1
8.子どもに対する食農教育・環境教育へのかかわり	8	30.8%	3	3	2
9.農業体験や収穫祭等のイベントをととした市民との交流	4	15.4%	1	2	1
10.景観作物の栽培などにより良好な空間・景観の提供	10	38.5%	6	4	0
11.特産品やお土産の開発と提供	2	7.7%	1	0	1
12.農畜産物や食・農業体験などに関する農家ならではの情報発信	4	15.4%	2	1	1
13.その他	0	0.0%	0	0	0
14.特になし	2	7.7%	0	2	0
合 計	85	100.0%	32	35	18

(3) 農家アンケート調査結果

[1] 調査の目的

本調査は、我孫子市農業振興地域整備計画の変更及び人・農地プランの作成のための基礎資料として活用することを目的に市内の全農家に対して行ったもの。

(手賀沼沿い農地活用計画の参考とするため当該地区の農家の回答のみを抜粋して集計した)

[2] 調査の方法と回収結果

- ・調査対象：我孫子市の農家組合に所属する農家のうち根戸新田、高野山・我孫子新田、岡発戸新田分を抽出
- ・調査時期：平成24年7月27日（金）～8月8日（水）
- ・有効回答：25人（郵送による配布・回収）

問1 まず、あなたの農家組合名をご記入ください。

農家組合名	回答数	構成比
根戸新田	10	40.0%
高野山・ 我孫子新田	8	32.0%
岡発戸新田	7	28.0%
合 計	25	100.0%

① あなたの世帯の状況についてお聞きします。

問2-1 あなたの世帯は何人ですか。

世帯人員は2人と6人以上が多い。次いで4人、5人と続いていて、比較的大家族が多い。

世帯員数	回答数	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1. 1人	1	4.0%	1	0	0
2. 2人	6	24.0%	2	2	2
3. 3人	3	12.0%	1	0	2
4. 4人	5	20.0%	2	3	0
5. 5人	4	16.0%	2	2	0
6. 6人以上	6	24.0%	1	2	3
合 計	25	72.0%	9	9	7

問2-2 農業に従事されている方は何人いますか。また、農業に従事されている方の年齢別、男女別の人数をお答えください。

農業従事者数は、52人で、男女比はほぼ半々、年齢別では60歳以上が70%近くを占めている。

	回答数	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
農業従事者数(合計)	52	17	19	16

従事者年齢	男	女	合計	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1. 10代	0	0	0	0.0%	0	0	0
2. 20代	0	0	0	0.0%	0	0	0
3. 30代	3	2	5	9.6%	1	2	2
4. 40代	3	3	6	11.5%	3	0	3
5. 50代	2	3	5	9.6%	2	2	1
6. 60代	9	13	22	42.3%	4	10	8
7. 70代以上	8	6	14	26.9%	7	5	2
合計	25	27	52	100.0%	17	19	16

問2-3 問2-2の農業に従事されている方のうち、農業以外の仕事をされている方(兼業)は何人いますか。年齢別、男女別でお答えください。

農業従事者52人のうち、農業以外の仕事をしている人は18人と3分の1程度であるが、30歳代~50歳代では半数近くに達している。

従事者年齢	男	女	合計	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1. 10代	0	0	0	0.0%	0	0	0
2. 20代	0	0	0	0.0%	0	0	0
3. 30代	1	1	2	3.8%	1	1	0
4. 40代	2	1	3	5.8%	1	0	2
5. 50代	1	1	2	3.8%	0	1	1
6. 60代	4	2	6	11.5%	2	3	1
7. 70代以上	2	3	5	9.6%	1	2	2
合計	10	8	18	34.6%	5	7	6

問2-4 問2-3で兼業をされている方の勤務形態と勤務場所はどちらですか。

勤務先としては、市内が多く、自営業が多くなっている。ヒアリングの中では、不動産賃貸業が多く聞かれた。

勤務形態	勤務場所	男	女	合計	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1. 恒常的に勤務	市内勤務	1	1	2	11.8%	0	2	0
	市外勤務	4	0	4	23.5%	1	2	1
2. 自営業	市内勤務	3	6	9	52.9%	3	3	4
	市外勤務	0	0	0	0.0%	0	0	0
3. 日雇・臨時雇 (パート、アルバイト を含む)	市内勤務	1	1	2	11.8%	1	1	1
	市外勤務	0	0	0	0.0%	0	0	0
合 計	市内勤務	5	8	13	76.5%	4	6	5
	市外勤務	4	0	4	23.5%	1	2	1
	合 計	9	8	17	100.0%	5	8	6

問2-5 あなたの世帯の主な収入はどれですか。

「農業収入」が一番多い。一方、農業外の収入では「事業収入」や「年金収入」も多く農業外収入をすべて合わせると60%以上を占めている。

収入区分	回答数	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1. 農業収入	11	37.9%	3	4	4
2. 給与収入	1	3.4%	1	0	0
3. 事業収入	9	31.0%	4	3	2
4. 年金収入	7	24.1%	2	2	3
5. その他	1	3.4%	0	1	0
合 計	29	100.0%	10	10	9

問2-6 あなたの世帯では、農業の後継者はいますか。

後継者がいる世帯は、「すでに農業に従事」、「後継者はいる」を合わせると40%強が「いる」としているが、まだ決まっていない世帯も含め、「いない世帯」も60%弱に上っている。

区分		回答数	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1.すでに農業に従事	男	4	15.4%	1	2	1
	女	2	7.7%	1	0	1
2.後継者はいる	男	3	11.5%	0	1	2
	女	2	7.7%	0	1	1
3.現時点ではまだわからない		9	34.6%	4	3	2
4.後継者はいない		6	23.1%	3	2	1
合 計		26	100.0%	9	9	8
回答農家数		24	—	10	7	7
後継者がいる	農家数	8	—	2	3	3
	割合	33.3%	—	20.0%	42.9%	42.9%

② 農業経営についてお聞きします。

問3-1 あなたは、何年後まで農業を続けていきたいと考えていますか。

農業継続意向では、できる限りは続けたいとする世帯が50%を超えているが、5年後、あるいはわからないも40%強に達している。

区分	回答数	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1.おおむね5年後まで	1	4.2%	0	1	0
2.おおむね10年後まで	0	0.0%	0	0	0
3.年数は不明だができる限り続けたい	13	54.2%	2	7	4
4.わからない	10	41.7%	6	1	3
合 計	24	100.0%	8	9	7

問3-2 あなたやあなたの世帯が農業を続けていくためには、どのようなことが求められますか。

農業を続けていくために求められることとしては、「パートやボランティアなど幅広い担い手を確保し、人手不足を解消する」、「市場出荷やJAへの出荷など安定した出荷先を確保する」、「後継者を確保・育成する」、「朝市、直売所、通販など新しい販路を確保開拓し、販路を多様化する」が、それぞれ30%を超えている。

区分	合計	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1.後継者を確保・育成する	5	31.3%	2	1	2
2.パートやボランティアなど幅広い担い手を確保し、人手不足を解消する	6	37.5%	2	1	3
3.市場出荷やJAへの出荷など安定した出荷先を確保する	6	37.5%	1	2	3
4.朝市、直売所、通販など新しい販路を確保開拓し、販路を多様化する	5	31.3%	0	2	3
5.大型機械の導入などによる近代化・省力化を推進する	2	12.5%	1	1	0
6.農地の借入(又は購入)、農作業の受託などにより経営規模の拡大を図る	0	0.0%	0	0	0
7.施設・設備の導入による高付加価値化を図る	2	12.5%	0	1	1
8.技術力向上や新技術の導入を図る	0	0.0%	0	0	0
9.環境保全型農業への取り組みを強める	1	6.3%	0	1	0
10.学校給食への農産物供給など地産地消の取り組みを拡大する	2	12.5%	0	2	0
11.市・JAなどで我孫子の農産物といえばこれというような特産品を開発し、その商品化に参加する	2	12.5%	1	1	0
12.農業と地域の商工業が組んだ6次産業化(農産物加工品開発・販売など)の取り組みに参加する	3	18.8%	1	1	1
13.ほ場や用排水施設、農道などの農業生産基盤の整備(改良含め)を進める	0	0.0%	0	0	0
14.農業生産法人や集落営農などの法人や組織に加わる	1	6.3%	0	1	0
15.認定農業者になり、農業用施設の整備や農業機械の購入などへの支援制度(融資や補助金)を活用する	2	12.5%	0	2	0
16.市で都市化対策を実施し、周辺住民との共存を進め、営農環境を守る	0	0.0%	0	0	0
17.農地を市民に利用してもらう「市民農園」を開設する	4	25.0%	1	2	1
18.都市住民との交流を積極的に行い、多様なネットワークをつくる	0	0.0%	0	0	0
19.相続税の負担軽減対策その他、持続的な農業を可能とするための国レベルの制度改革	11	68.8%	2	6	3
20.その他	1	6.3%	1	0	0
回答数合計	53	—	12	24	17
回答農家数	16	100.0%	4	6	6

③ 農業用施設及び農業用機械の整備についてお聞きします。

問4-1 集落の農業を持続させていく上で、あなたの集落で今後必要だと思う農業用施設（共用施設の整備又は担い手農家による整備）はありますか。

農業用施設及び農業機械の整備については、ライスセンターが11%、農機具倉庫が6%となっている一方、80%以上の世帯で、特になしとしている。

区分	回答数	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1.育苗施設	0	0.0%	0	0	0
2.ライスセンター	2	11.1%	0	1	1
3.農機具倉庫	1	5.6%	0	1	0
4.集出荷施設	0	0.0%	0	0	0
5.特になし	15	83.3%	9	3	3
6.その他	0	0.0%	0	0	0
合 計	18	100.0%	9	5	4

問4-2 あなたは、今後大型機械を購入（買い替え）したいと考えていますか。

今後大型機械を購入（買い替え）したいと考えている世帯は15%で、必要なしが50%となっている。

区分	回答数	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1.すぐに購入したい	0	0.0%	0	0	0
2.おおむね5年以内に購入したい	2	10.0%	0	1	1
3.おおむね10年以内に購入したい	1	5.0%	0	0	1
4.必要ない	10	50.0%	7	3	0
5.わからない	7	35.0%	2	2	3
合 計	20	100.0%	9	6	5

問4-3 問4-2で1~3と回答された方にお聞きします。あなたが購入を考えている大型機械・施設等の種類（名称）を第2希望までご記入ください。

大型機械・施設等の種類では、トラクターが2件、乾燥機、トラック、作業場がそれぞれ1件となっている。

第1希望	トラクター	2件
	乾燥機	1件
第2希望	トラック	1件
	作業場	1件

④ 市民とのかかわり・交流についてお聞きします。

問5 あなたは農業を営む中で、今後、市民とどのようなかかわりをもっていきたいですか。

「直売所等への出荷を通じた農産物の提供」、「農地などを保全する活動での市民との協働」、「市民農園・体験農園の提供や栽培技術等の指導」がそれぞれ20%を超えている。

区分	合計	構成比	根戸新田	高野山・ 我孫子新田	岡発戸新田
1.直売所等への出荷を通じた農産物の提供	5	27.8%	1	1	3
2.有機・減農薬など環境に配慮した農畜産物の生産と販売	3	16.7%	0	1	2
3.農作業技術を身に付けた方の雇用(パート含め)	2	11.1%	0	0	2
4.援農ボランティアなど農業理解者との連携	3	16.7%	0	1	2
5.農地などを保全する活動での市民との協働	5	27.8%	2	1	2
6.市民農園・体験農園の提供や栽培技術等の指導	4	22.2%	1	2	1
6-2.もぎとり体験ができる観光農園の開設	0	0.0%	0	0	0
7.農家レストランなどを開設し、地元の食材を活かした食事を提供	2	11.1%	0	2	0
8.子どもに対する食農教育・環境教育へのかかわり	3	16.7%	0	2	1
9.農業体験や収穫祭等のイベントをととした市民との交流	1	5.6%	0	0	1
10.景観作物の栽培などにより良好な空間・景観の提供	2	11.1%	0	1	1
11.特産品やお土産の開発と提供	1	5.6%	0	1	0
12.農畜産物や食・農業体験などに関する農家ならではの情報発信	2	11.1%	0	1	1
13.その他	0	0.0%	0	0	0
14.特になし	10	55.6%	6	3	1
合 計	18	100.0%	10	16	17

(4) 市民アンケート調査結果

1] 調査の目的

本調査は、市民を対象として、市内における観光・レジャーの状況や観光資源に対する評価、観光・レジャーに対する嗜好、手賀沼周辺の農業に対する考えなどを把握・分析し、我孫子市観光振興計画策定のための基礎資料として活用することを目的とする。
(我孫子市観光振興計画策定のための市民アンケートのうち農業にかかる部分を抜粋)

[2] 調査の方法と回収結果

- ・調査対象：我孫子市在住の満 20 歳以上の男女
- ・調査時期：平成 24 年 8 月 1 日（水）～8 月 15 日（水）
- ・有効回答：740 人

[3] 報告書の見方について

集計は、小数点第 2 位を四捨五入してある。したがって、数値の合計が 100%にならない場合がある。

回答の比率（%）は、その質問の回答者数を基数として算出した。したがって、複数回答の設問は、全ての比率を合計すると 100%を超えることがある。

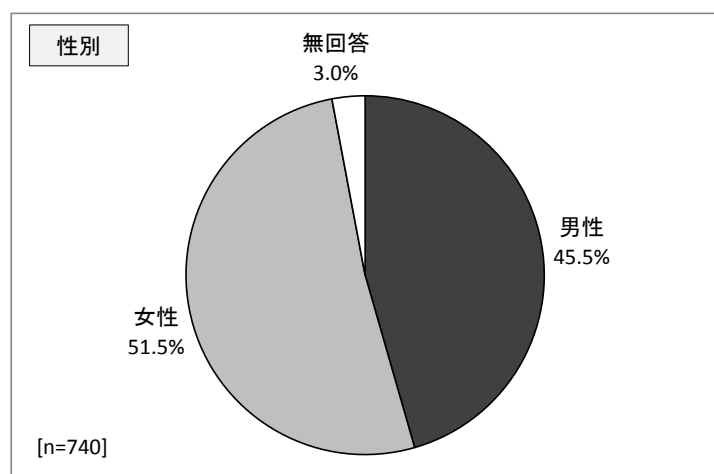
質問の回答者数は [n] として掲載した。

複数回答の質問については図表に《MA》と表示した。

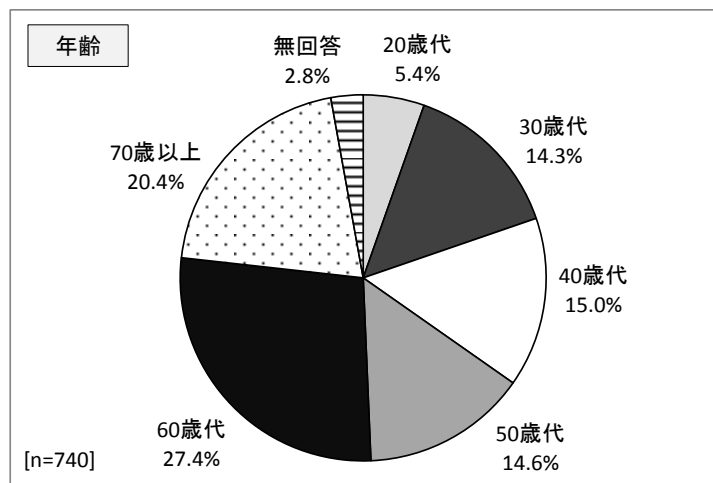
本文や図表中の選択肢表記は、語句を短縮・簡略化している場合がある。分析軸に使用した属性項目は、未回答を除いてあるため、各属性の件数の合計が全体件数と異なる場合がある。

1) 属性

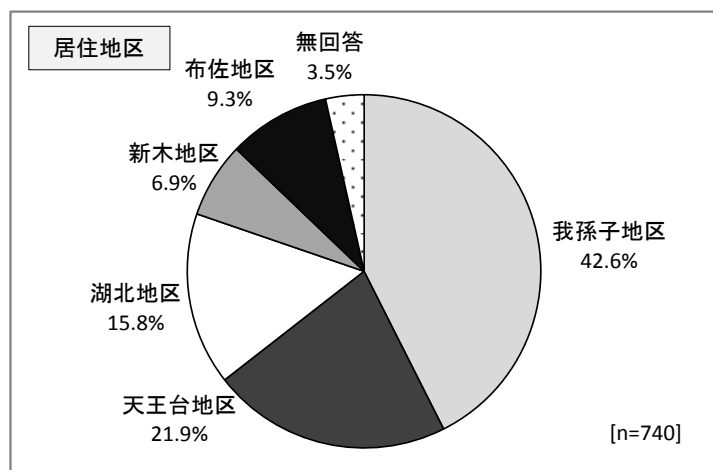
① 性別



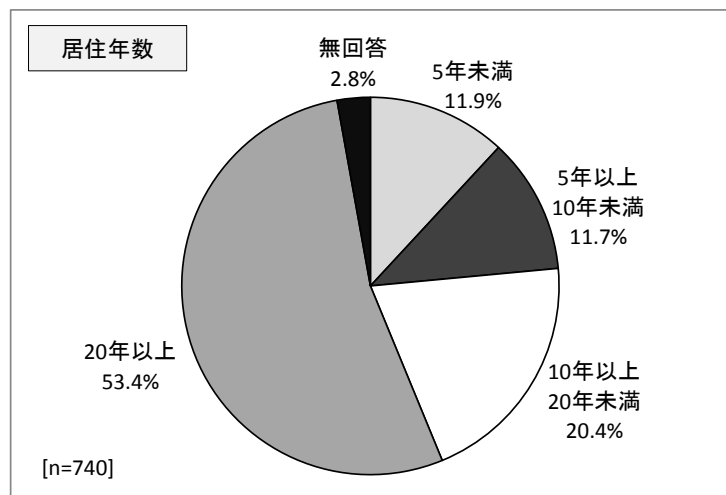
② 年齢



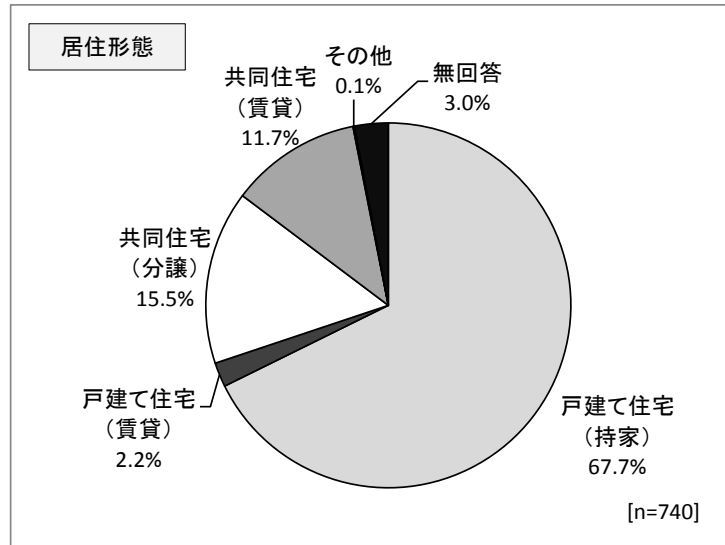
③ 居住地区



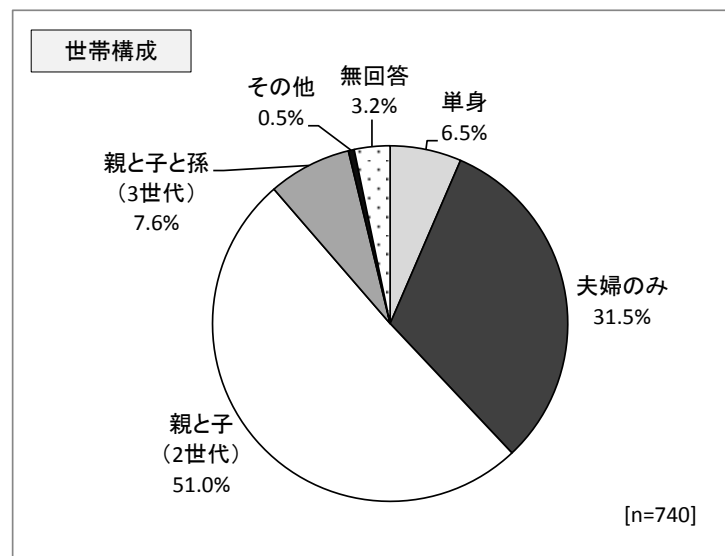
④ 居住年数



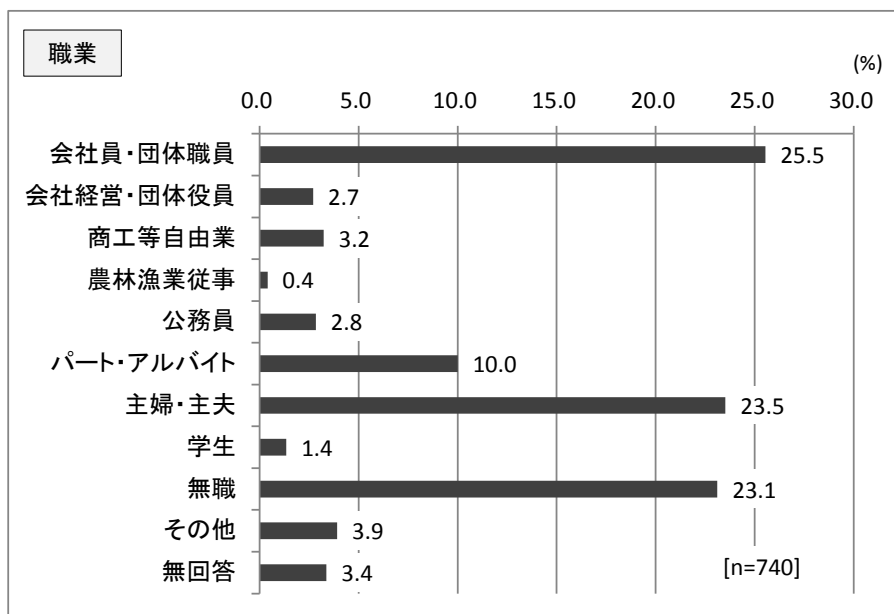
⑤ 居住形態



⑥ 世帯構成



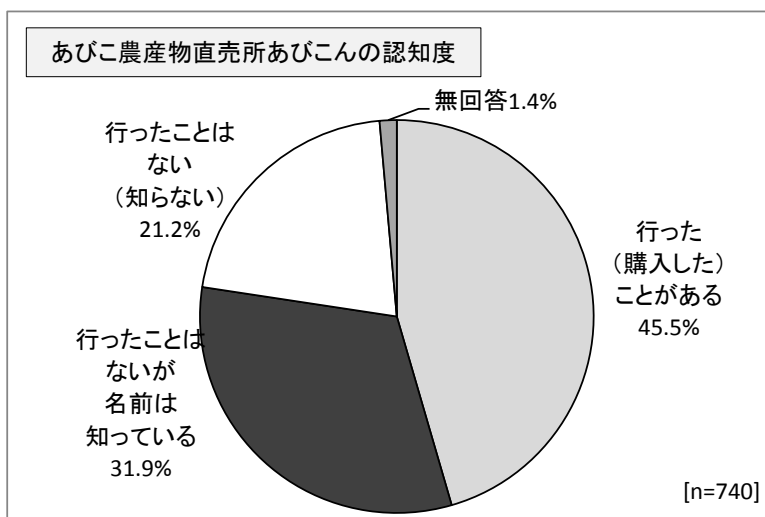
⑦ 職業



2) 我孫子市・手賀沼周辺の農業について

① あびこ農産物直売所あびこの認知度

あびこ農産物直売所あびこの認知度は、「行った(購入した)ことがある」が45.5%、「行ったことはないが名前は知っている」が31.9%、「行ったことはない(知らない)」は21.2%となった。



② あびこ農産物直売所あびこに対する評価

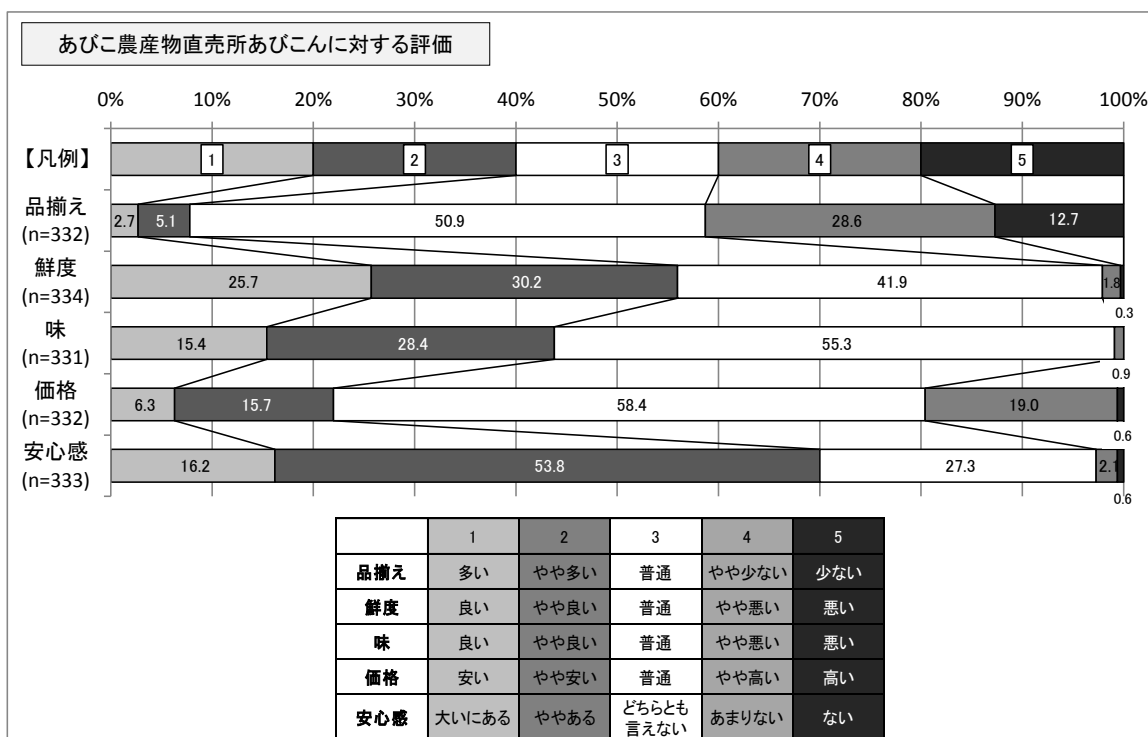
あびこ農産物直売所あびこに対する評価を見ると、「品揃え」では「多い(多い+やや多い)」が7.8%であったのに対し、「少ない(やや少ない+少ない)」は41.3%に上った。

「鮮度」では「良い(良い+やや良い)」が55.9%と過半数を占め、「悪い(やや悪い+悪い)」は2.1%にとどまった。

「味」では「良い(良い+やや良い)」が43.8%であったのに対し、「悪い(やや悪い+悪い)」は0.9%にとどまった。

「価格」では「安い(安い+やや安い)」(22.0%)と「高い(やや高い+高い)」(19.6%)が拮抗している。

「安心感」では「ある(大いにある+ややある)」が70.0%と大きな支持を受けており、「ない(あまりない+ない)」は2.7%にとどまった。



③ あびこんに追加してほしい施設・サービス

あびこんに追加してほしい施設やサービスについて自由記入方式でたずねたところ、162人の方から意見が寄せられた。1人が複数の意見を記入している場合は、それぞれを1件として件数を数えた。

「品揃えの充実」が66件で最も多く、以下「飲食施設の設置」(34件)、「休憩場所の設置」(12件)、「店舗面積の拡大」(10件)などとなっている。

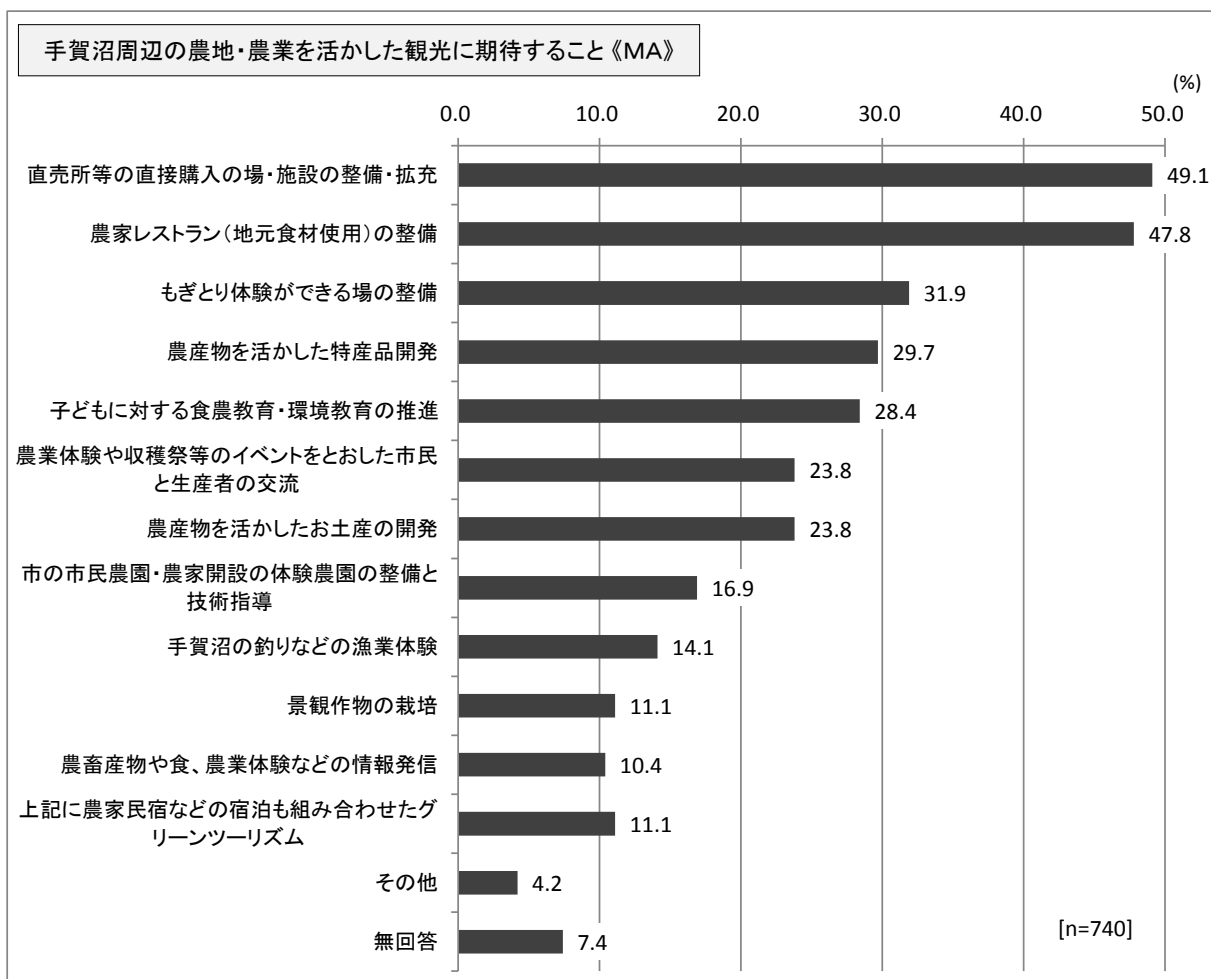
内容別件数

品揃えの充実	66
飲食施設の設置	34
休憩場所の設置	12
店舗面積の拡大	10
陳列方法・POPの充実	9
案内看板設置・PR強化	8
アクセス・立地場所の改善	8
営業時間延長	6
イベントの実施	6
活気・明るさ	5
価格の引き下げ	4
試食の実施	4
食品放射線量の表示	4
トイレの充実	3
道の駅との差別化	2
接客対応の改善	2
駐車場の改善	2
その他	22
合計	207

④ 手賀沼周辺の農地・農業を活かした観光に期待すること

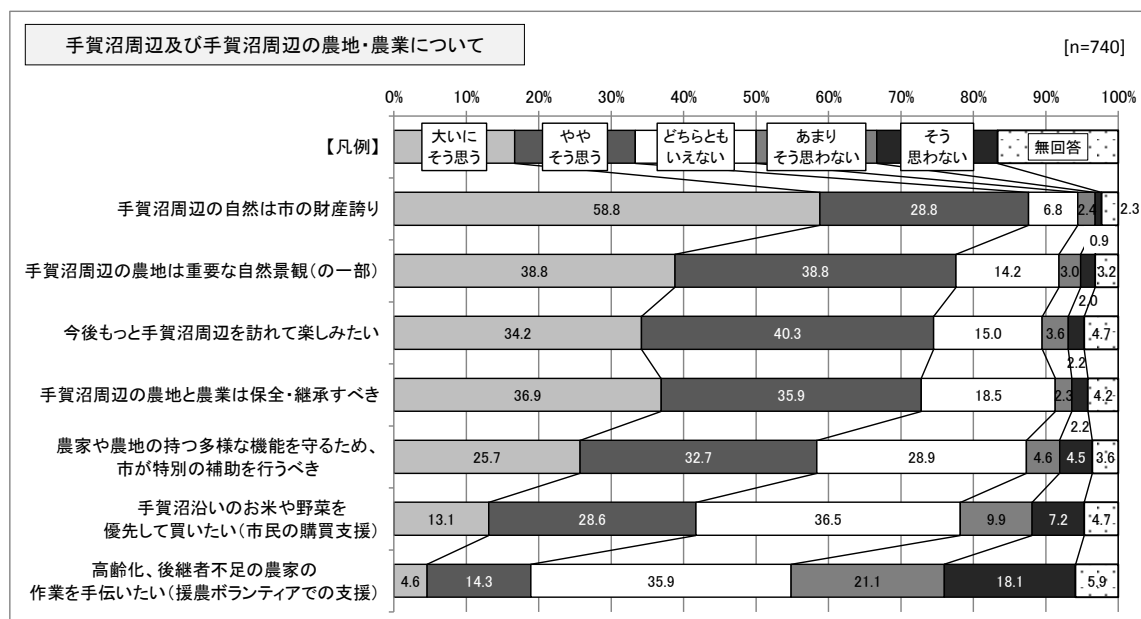
手賀沼周辺の農地・農業を活かした観光に期待することは、「直売所等の直接購入の場・施設の整備・拡充」が49.1%、「農家レストラン(地元食材使用)の整備」が47.8%と、この2つが突出して高くなっている。

以下「もぎとり体験ができる場の整備」(31.9%)、「農産物を活かした特産品開発」(29.7%)、「子どもに対する食農教育・環境教育の推進」(28.4%)などとなっている。



⑤ 手賀沼周辺及び手賀沼周辺の農地・農業について

手賀沼周辺及び手賀沼周辺の農地・農業についてたずねたところ、「そう思う（大いにそう思う＋ややそう思う）」の比率は、「手賀沼周辺の自然は市の財産誇り」が約9割を占め最も高く、以下「手賀沼周辺の農地は重要な自然景観（の一部）」（77.6%）、「今後もっと手賀沼周辺を訪れて楽しみたい」（74.5%）、「手賀沼周辺の農地と農業は保全・継承すべき」（72.8%）、「農家や農地の持つ多様な機能を守るため、市が特別の補助を行うべき」（58.4%）となった。



2. 地域資源調査結果

1) 根戸新田地区

新計画を構成していく上で重要な、根戸新田地区における地域資源をみると、根戸城趾や武者小路実篤邸跡などがあるが、十分開放されているわけではないので、認知度も十分でない。これらは、農地の後背地の緑地等を形成するものであるため、一体的な活用を図り、市民や都市住民の憩いの場として機能させていくことが望ましい。

また、この地区の農地は、すでに市民農園・観光農園や景観作物の栽培、冬水田んぼなど、市民向けにも活用され始めているほか、隣接する地区にあびこ農産物直売所あびこんが立地しており、重要な地域資源となっている。

立地	分類	名称
根戸新田 付近	名所・史跡	金塚古墳
		荒追遺跡
		台田南遺跡
		船戸西遺跡
		根戸城跡
		武者小路実篤邸跡
	公園・緑地	根戸船戸緑地
		ハケの道、わき水
	直売所	あびこ農産物直売所あびこん

2) 高野山新田・我孫子新田地区

新計画を構成していく上で重要な、高野山新田・我孫子新田地区における地域資源をみると、高野山新田地区には、我孫子市鳥の博物館、千葉県の水の館などの施設、高野山桃山公園、千葉県手賀沼親水広場などの公園・緑地、さらには、高野山ふれあい市民農園、水生植物園などの手賀沼農舞台に位置づけられた園地を含め、公益的な施設などが集中して立地している。

またこの地区に隣接する旧我孫子新田周辺地区には、白樺文学館、志賀直哉邸跡、杉村楚人冠記念館など白樺派関係の施設や、我孫子手賀沼漁協農産物直売所などの施設がある。

このように、本地区は、農業的な施設の他にも都市住民向けの施設が集積しており、これらのネットワーク化を図ることにより、より大きな交流拠点となるポテンシャルを秘めている。

立地	分類	名称
高野山新田 付近	名所・史跡	高野山古墳
		子の神古墳
		子の神大黒天
		西野場遺跡
		水神山(すいじんやま)古墳
		前原古墳群
		西大久保古墳
		香取神社古墳群
	博物館	我孫子市烏の博物館
		千葉県手賀沼親水広場(水の館)
	公園・緑地	高野山桃山公園
		千葉県手賀沼親水広場
		水生植物園
	市民農園	高野山ふれあい市民農園
釣り堀	小川つり堀園(民間)	
我孫子新田 付近	名所・史跡	白山古墳
		志賀直哉邸跡
	博物館	白樺文学館
		杉村楚人冠記念館
	公園・緑地	手賀沼公園
		手賀沼遊歩道
	スポーツ施設	手賀沼公園テニスコート
	図書館	我孫子市民図書館
直売所	我孫子手賀沼漁協農産物直売所	

3) 岡発戸新田地区

新計画を構成していく上で重要な、岡発戸新田周辺における地域資源などをみると、五本松公園、岡発戸市民の森など、緑豊かな公園・緑地が多く立地している。また五本松運動広場、我孫子市少年野球場、ふれあいキャンプ場などスポーツ・野外活動関係の施設も多い。

立地	分類	名称
岡発戸新田 付近	名所・史跡	滝前遺跡
	公園・緑地	五本松公園
	市民の森	岡発戸市民の森
	キャンプ場	ふれあいキャンプ場
	スポーツ施設	五本松運動広場
		我孫子市少年野球場
	釣り堀	つり堀鈴木園(民間)

3. 「先進事例」の調査

1) 野田市江川地区

参考となる事項	行政が農業生産を行う会社を設立（(株)野田自然共生ファーム）
主たる事業主体	野田市
地区面積（ha）	全体 90ha、うち農地 65ha、市の購入用地 33ha
取り組み経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・野田市江川地区は、大手ゼネコンが住宅地開発のために買収を進めていた。しかし、住宅地として開発される前にゼネコンが倒産したため、土地が第三者にわたって乱開発されないために、市の出資会社がゼネコンから購入して、保全を図っている。 ・この土地の管理を行うに当たり、市は、市と地元の農家により第3セクターの「(株)野田自然共生ファーム」を設立し、そこに市から資金を投入して事業を行っている。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農地の購入・管理（江川地区） ・農産物の生産・加工・販売（江川地区、主として水稻） ・生産調整事業（舟形地区、麦・大豆） ・市民農園の運営管理（江川地区） ・農業関係の土木事業（江川地区、水路整備、復田など） ・その他市からの委託事業（堆肥センター事業、農村公園の管理委託、農林業センターの委託など）
本市に参考となる点	<ul style="list-style-type: none"> ・農地を購入・管理・耕作するために市が会社（株式会社・農業生産法人・第3セクター）を設立。 ・市は3億円を拠出し、その資金を土地の購入、管理棟の整備などに充てたほか、購入した農地の管理、耕作を継続的に行っている。 ・株主は、市と地元農家であるが、株主の出資比率をみると、地元農家はごく僅か（5万円×5人）で、ほとんどを市が出資。 ・市の出資会社が買い取った農地は、社員等が耕作するほか、市民農園として市民に貸し出している。
参考となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・手賀沼沿いの農家でも、農業後継者のいない農家が増えており、耕作する人がいなくなった農地については、市としては、当面は、貸し借りのマッチングに取り組む予定であるが、ゆくゆくは借り手や買い手のいない農地をいったん市が購入して中間管理をせざるを得なくなる可能性がある。 ・そのときに耕作してくれる人がいない場合は、市の出資会社自らが耕作する可能性もある。
その他の注目点	<ul style="list-style-type: none"> ・宅地化を想定していたため、購入した土地はすべて耕作放棄地となっており、一気に復田することは無理があり、会社の体力に合わせて徐々に復田している。復田できない土地は、荒地地にならないように草刈りをして管理している。

その他の注目点 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・復田した土地は、水田型の市民農園として市民に貸し出しているほかは、会社の社員が直接耕作している。 ・この事業だけで採算は合わないので、市の農業系の委託事業をいくつか受けている。5年を目処に独立採算にする予定。 ・地元農家は取締役となっているほか、パートタイマーとして、自分の空いた時間だけ当社の仕事をしている。正社員は、市民から農家以外の人を採用し、教育した。 ・大型で利用頻度の少ない機械は会社で購入して、農家に貸し出している。
-----------------	---

2) 三鷹市ふれあいの里(大沢の里など)

参考となる事項	農業系の公園整備、学校教育などへの活用、農地の管理への市民参加手法
主たる事業主体	三鷹市
地区面積 (ha)	大沢の里 (約 23ha)、丸池の里 (約 7 ha)、牟礼の里 (約 7ha)
取り組み経緯	<ul style="list-style-type: none"> ・三鷹市は元々都下の市の中でも生産緑地が多く残されている地域であるが、最近はその減少が課題となっており、その対策の一つとして、地域に残された自然・歴史・文化資源を保全しつつ、市民が誇れる空間を再生するための核となる、農業を生かした公園を整備した。 ・これらの公園整備に当たっては、市民が中心となったワークショップから提案された市民の思いを盛り込んでおり、市民との協働により整備や運営を行っている。
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・3つのふれあいの里(大沢の里、丸池の里、牟礼の里)の整備・管理。 ・整備方針の策定(市と市民の協働(ワークショップ)で策定) ・管理は、市主導のNPO法人花と緑のまち三鷹創造協会を設立し、そこに一部業務を委託。その下で、各公園ごとに異なる市民団体が協力して実施。
本市に参考となる点	<ul style="list-style-type: none"> ・3本の河川軸(野川、仙川、玉川上水)沿いに3地区ふれあいの里を整備(大沢の里、丸池の里、牟礼の里)。農業的な土地利用の場所を市が購入して整備している。三鷹市では、都市内の公園整備に当たって、農地を農地のまま活用したり、人工の水田を新設したりして、農業の要素を都市内に残そうとしている。大沢の里には市内の唯一の水田が残され、丸池の里には人工の体験水田を、牟礼の里には学校農園(畑)を整備。 ・大沢の里の水田は子どものたちの体験農園として、丸池の里の体験水田と牟礼の里の学校農園(畑)は学校教育で使用されている。農業的な体験については、地元農家の協力を得ている。 ・市民参画を得るために、市民の思いを反映する組織としてNPO法人などを創設している。また、計画段階から市民主体のワークショップなどにより協働の枠組みを作っていった。

参考となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・手賀沼沿い農地でも、後継者不足や高齢化などから農家が営農を継続できる期間は限られてきており、営農できなくなった農地の活用方策の一つとして公園的な利用が考えられる。 ・我孫子市でも農業を体験学習に取り込んでいる学校はあるが、ごく僅かであり、職業学習、環境学習、食育などの視点から今後その拡大が求められる。農家も農作業でかかわっている。 ・現時点では、手賀沼沿い農家と市民の関わりは深くなく、市民をどう参画させていくかが課題となっている。市民参画の仕組みとして、計画段階からワークショップを開催し、市民の意向を反映させることは有効である。
その他の注目点	<ul style="list-style-type: none"> ・整備や管理に当たっては、NPO法人花と緑のまち三鷹創造協会を設立し、そこが核となっている。このNPO法人は市が主導して設立。毎年人件費などに見合う相当額を市から投入することとしており、自立は考えていない。緑や自然を将来にわたって維持し、さらに創出していくため、市民、事業者、三鷹市が協働を行うための組織で、ここを核に市民が参加し、各公園を運営、整備していく。

3) みずほの村市場

参考となる事項	農産物直売所の運営
主たる事業主体	株式会社農業法人みずほ（茨城県つくば市）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物直売所（農産物・農産物加工品・無添加食品・切花・花卉・園芸資材・肥料の販売） ・畜舎（そばや） ・体験農園
本市に参考となる点	<ul style="list-style-type: none"> ・市場出荷より高収益が得られるように、安売り競争をせず適正価格での価格設定。新規に参加する生産者は既に出荷されているものより価格を下げてはならない。 ・周辺の安売りのスーパーなどに対抗するため、中間流通コストを抑え、生産方法や味にこだわり品質重視の消費者をターゲットとした。そのために、生産の達人に出荷者に加わってもらった。 ・原則1品目2人以上が出荷し、品質を競わせると同時に商品を選ぶ楽しみを与える。 ・農業を理解してもらうための様々なイベント（ヒマワリの迷路、収穫祭等）を実施。
参考となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・我孫子市でもあびこ農産物直売所あびこんが設置されており、今後、事業拡大を狙っているので、その参考とする。 ・手賀沼沿いの農家では、農業収入・収益が低いことが、後継者不足の原因となっており、有利な販路確保の面で、高収益を生み出す手法として参考とする。

4) 農家家庭料理のレストラン「バーバーズダイニング」

参考となる事項	農家レストランの運営
主たる事業主体	株式会社菜っちゃん（岐阜県中津川市）
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農家家庭料理のレストラン「バーバーズダイニング」 ・アグリハウスなっちゃん（農産物直売所：野菜全般・加工品・花物・卵・米・惣菜）
本市に参考となる点	<ul style="list-style-type: none"> ・母体は、農家の主婦のみが集まってはじめた野菜直売所。 ・その事業拡大策として、農家手づくり家庭料理レストラン『バーバーズダイニング（おばあちゃんたちの台所）』を開設。 ・自慢の野菜をもっとたくさん食べて欲しい、子どもや孫に安心して食べてもらえる野菜や料理を作りたい、私のおばあちゃんが、みんなのおばあちゃんに、地元・中津川の郷土料理や山菜料理を家族に伝えていくのと同じように、たくさんの方に伝えていきたい、という「思い」でスタート。自分たちの元気に働く姿を見て、“農家にお嫁に行きたいな”と思ってもらうのが夢。
参考となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・我孫子市でも直売所はあるが、農家レストランはない。しかし、市民の中には、地元の食材を生かした農家レストランの整備についてのニーズは高い。上記事例で農家レストランの母体が直売所であったこと、その運営のために集まった農家の主婦たちが中心になってスタートしたことなどが参考となる。 ・自分たちの商品や料理に自信を持ち、さらに自分たちの「思い」を伝えていくために、事業を立ち上げている。その思いを明確に打ち出していることが、成功要因に結びついている。

5) 農業生産法人 株式会社ナガホリ

参考となる事項	耕作放棄地を集めて再生し、小松菜生産県下一に、都市住民をパート社員として雇用
主たる事業主体	農業生産法人 株式会社ナガホリ（埼玉県上尾市）
地区面積（ha）	圃場総面積 53ha
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・小松菜の生産（市場出荷、加工用出荷）、その他枝豆、タマネギの生産 ・農地復元（耕作放棄地からの農地復元）
本市に参考となる点	<ul style="list-style-type: none"> ・都市郊外で、後継者がいないため耕作放棄地となっていた土地を経営資源と気づき、それを借地で集めて優良農地に復元し、小松菜を栽培することにより、県下一の出荷農家となった。 ・農地の復元に関しては、復元して一定期間は賃借料を支払わない契約を結んでいる。 ・農地を復元するための大型重機類はすべて自社で持ち、土木作業も自社で行っている。

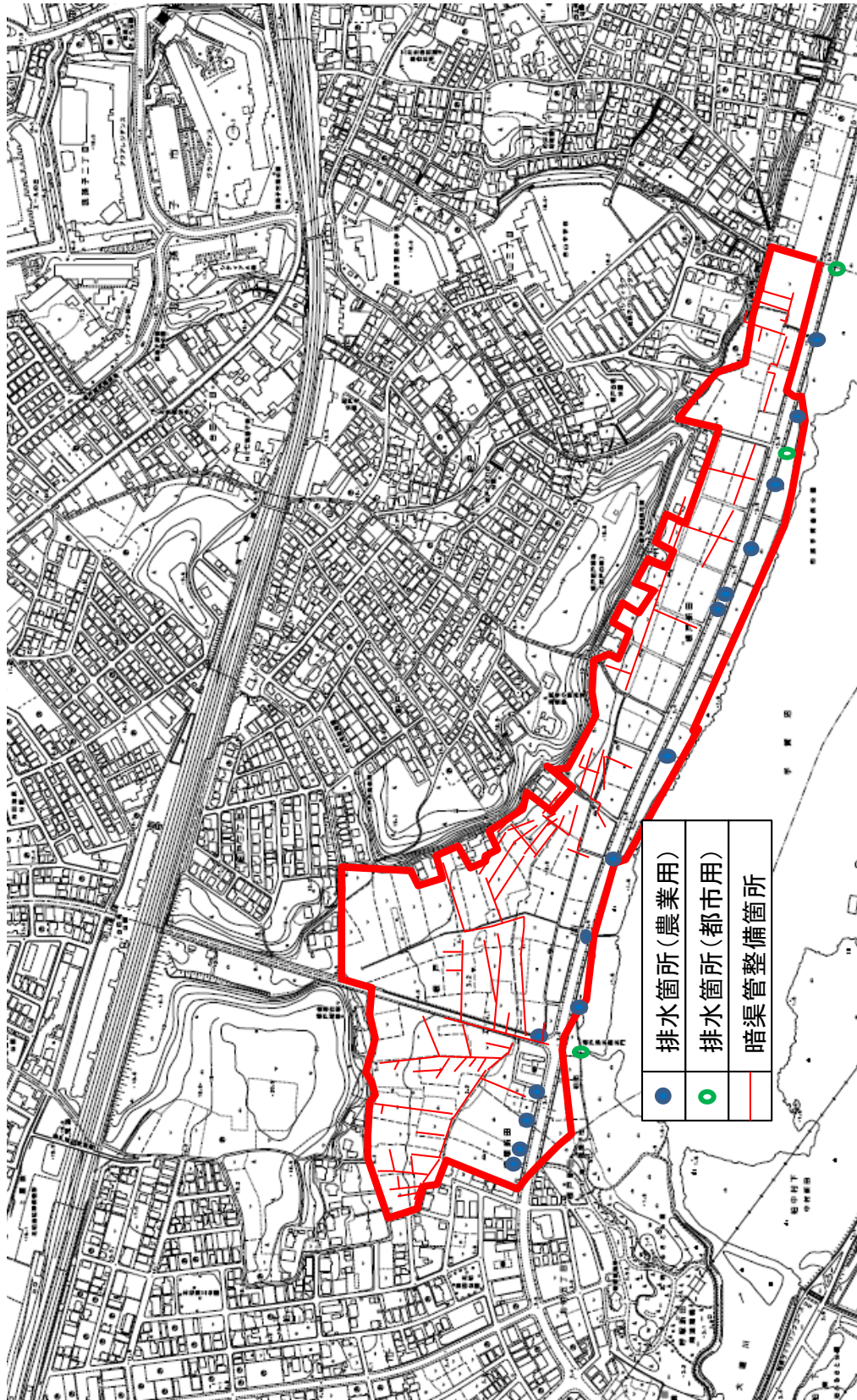
本市に参考となる点 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ・農作業は都市住民（主として高齢者）をパート社員（190名）で雇っている。分業制として、自分の担当する分野だけのノウハウを習得すれば農作業ができるようにして、就業のハードルを下げている。
参考となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄地も集めて復元すれば優良な農地として生まれ変わらせることができる。 ・都市住民（主として高齢者）をパート社員として雇用し、農作業に当たらせている。その際、農作業のすべての工程を学ばせるのではなく、一部工程のみ身につけさせることにより、短い教育期間で戦力としている。

6) 足立区立都市農業公園

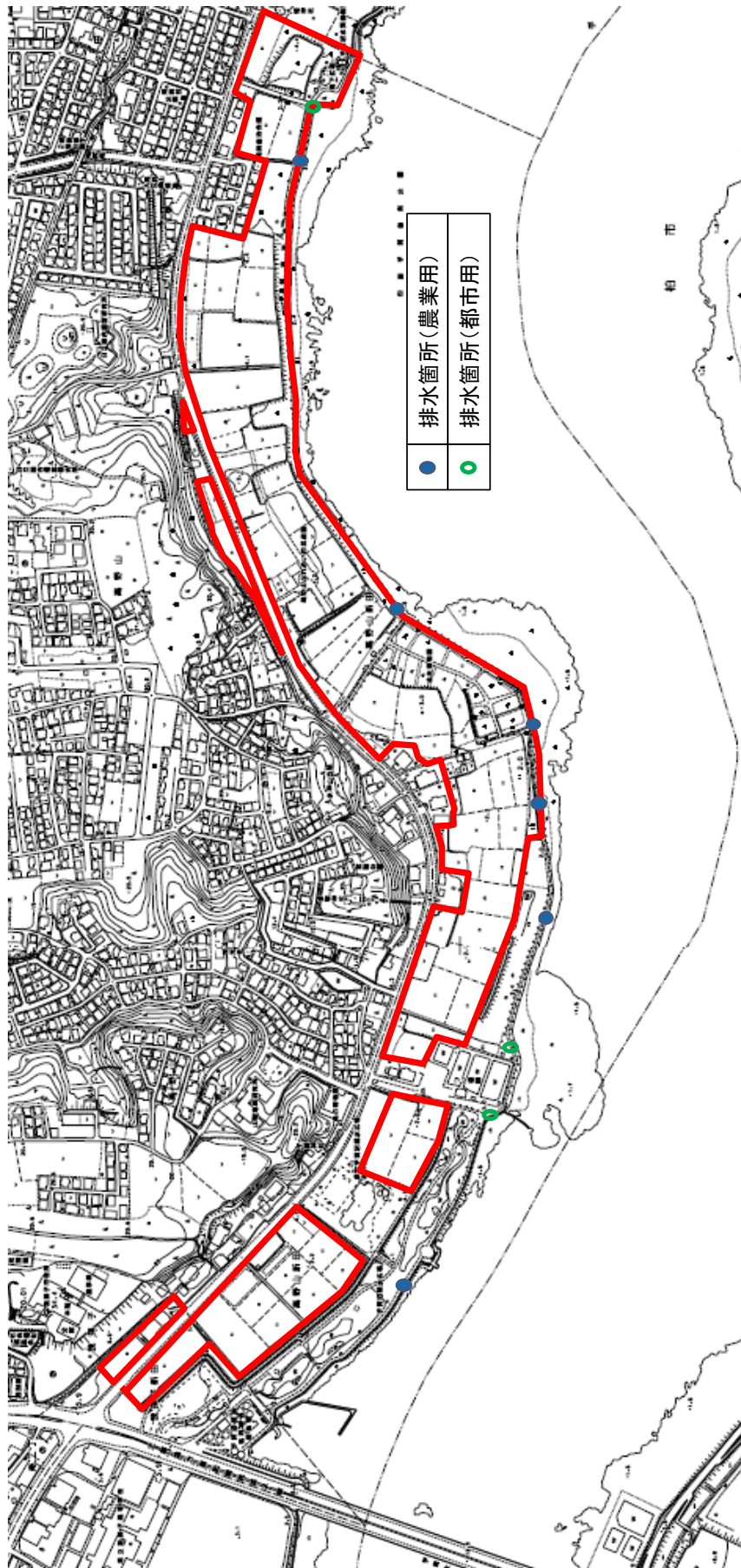
参考となる事項	農業公園の整備・運営、市民の参加
主たる事業主体	指定管理者：足立都市農業公園パートナーズ
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園の管理・運営（管理する機能は、田、畑、花壇、古農家、レストラン、温室、資料展示室、事務所、駐車場など） ・ボランティアの募集・教育・管理
本市に参考となる点	<ul style="list-style-type: none"> ・運営は、民間企業(代表企業：西武造園(株))と地元のNPO法人足立花と緑の会が、協力して組織をつくり対応している。 ・市民参加の試みとして、公園内で行う農作業や花の管理についてボランティアを募集しているが、その教育などにも、NPOが関わっているほか、園内で行われる春のはなまつり、秋の収穫祭などのイベントにも、協力している。 ・場所は荒川の河川敷と、その脇の農地であり、水辺という環境も似ている。農業公園内にある機能は、田、畑、花壇、古農家、レストラン、温室、資料展示室、事務所、駐車場など。
参考となる理由	<ul style="list-style-type: none"> ・単に民間企業に委託するのではなく、地元のNPO法人を絡ませ、それだけでも市民参加に結びついているが、さらに市民ボランティアを募集している。根戸新田地区で活動しているNPOなどの市民団体があることから、当地域での活動について、いろいろな関係者がそのノウハウを持ち寄って、コラボしていく手法の参考となる。 ・農業公園として最低限整備すべきものを考察する際の参考となる。

4. 各地区の排水施設の現況調査

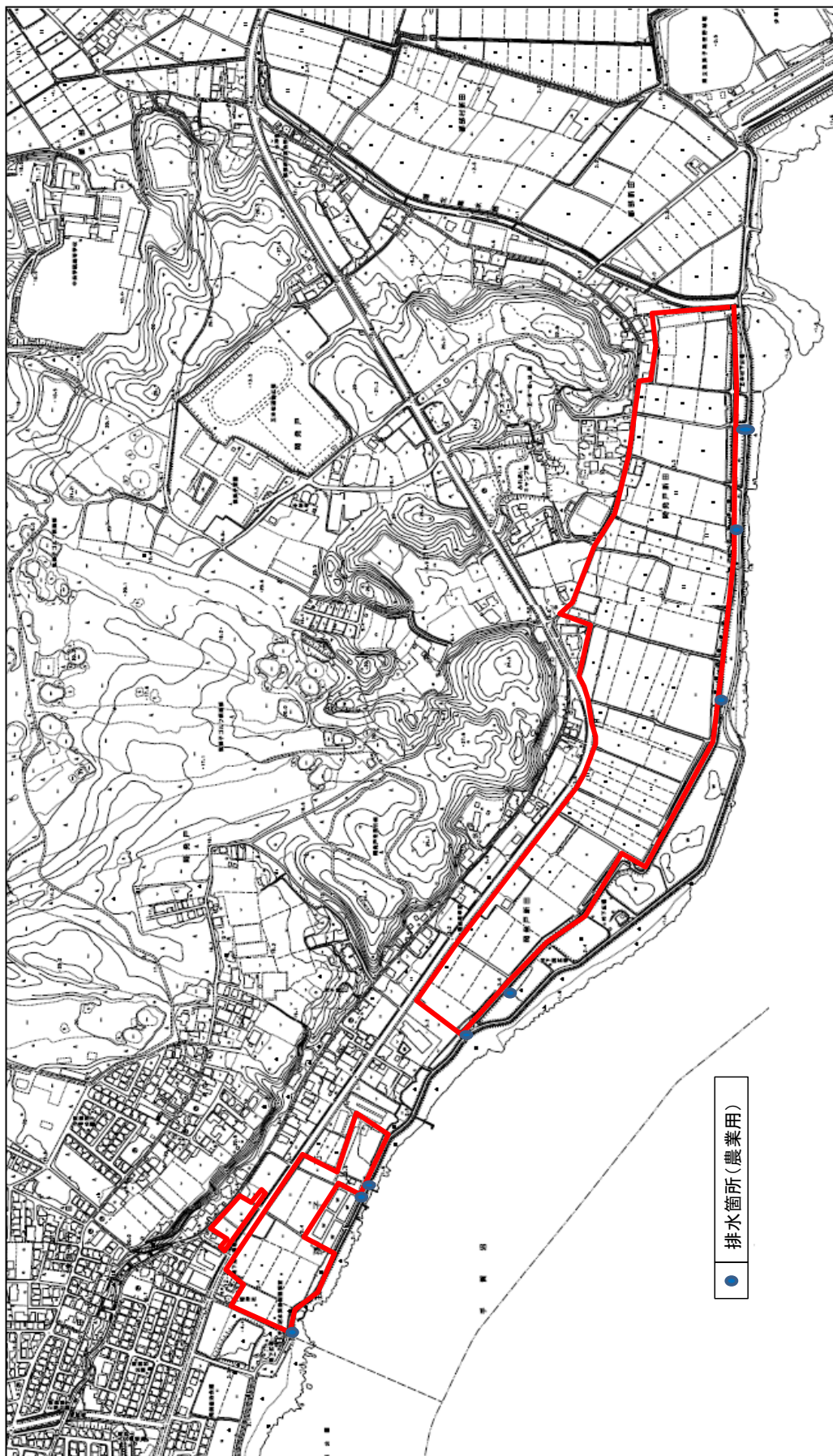
(1) 根戸新田地区



(2) 高野山新田・我孫子新田



(3) 岡発戸新田



我孫子市手賀沼沿い農地活用計画 資料編

発 行 我孫子市

編 集 我孫子市 環境経済部 農政課

発行日 平成 25 年 3 月
